



西前小だより

横浜市立西前小学校

Web: <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nishimae/>



「雨上がりのグラウンドで」

副校長 坂入 亮太

ある高等学校にサッカーの審判で出かけたことがあります。前夜遅くから急に激しい雨が降り、

試合開始までに止むかどうか予報もまちまちで、雨支度をしっかりして試合に臨みました。

会場校の土のグラウンドは田んぼのようにぬかるんでいます。競技のフィールドの角は大きな水たまりになり、旗を立てられず、ラインが引けない状態です。対戦する両チームの監督が顔を合わせているところに私も挨拶に行き、試合の進行について打ち合わせました。私が身支度をする間、会場校の監督さんは、黙って選手の様子を見ていました。上級生も下級生も、黙々と水たまりに雑巾やスポンジを浸し、水を吸い出していきます。かなりの大きさだった水たまりは、キックオフの15分前によくラインが引けるようになり、空もそれまでの天気が嘘のように晴天となりました。

急いでフィールドの状態を確認し、いよいよキックオフ前のセレモニーという時、対戦校の選手からこんな声が聞こえてきました。

「この会場で試合ができるのは、決して当たり前じゃない。相手に感謝して戦おう！」

会場校の選手たちは円陣になったままその声を聞き、晴れやかな顔でフィールド脇に整列しました。

試合は接戦。両チームとも多くのチャンスをつくりませんが、なかなか得点できないでいます。そして後半、会場校の選手がコーナーに流れたボールに、ラインを割る直前に飛び込んでパスを返し、劇的なゴールを奪いました。選手が必死で乾かしたコーナー。副審ともボールがラインを割っていなかったかどうか確認し、抱き合っただけで喜ぶ選手の顔を見ながら得点を認めるシグナルを出したことを覚えています。

試合後、審判報告書を書きながら会場校の監督さんと話をしました。自分たちで自分たちの環境を整えていけるように、選手たちに自立を促していること、支えが必要だと見てとれたときは、指導者が迷わずそばに居ることを語られていました。

子どもたちの成長を見守りながら支えていくことは、決して簡単なことではないと感じます。私自身、我が子の姿を見て様々に口を出してしまうことも多く反省しきりです。

しかし、子どもたちは未来への宝物。その可能性を伸ばしていくことができればと願っています。